

1. 要 旨

湖沼湿原調査では、風蓮湖や温根沼(おんねとう)を中心に、周辺を含めた約 470k m²を対象として、湖沼調査、土地利用調査、地形調査を実施しました。

なお、風蓮湖の湖沼調査は、1979(昭和54)年、1981(昭和56)年に調査済みです。

(1) 湖沼調査

湖沼調査では、温根沼の地形・底質・水中植物を調査し、次の結果を得ました。

- 1) 温根沼の湖底地形は、最大流入河川のオンネベツ川から海へと続く澁筋(みおすじ)とそれ以外の浅い部分に分けられます(図-2、図-3)。
- 2) 澁筋は、蛇行を繰り返したのち、温根沼大橋の下を経て根室湾へと注いでいます。
- 3) 最大水深部は、澁筋の湾曲部にあり約 7.3mです。(図-2)
- 4) 底質は、温根沼大橋付近からオンネベツ川に向かって、砂から、泥質砂、砂質泥、泥と粒径が小さくなっています(図-4)。
- 5) 澁筋の底質は、流れの影響で周辺より粒径が大きくなっています。
- 6) 澁筋の蛇行部分凸部の外側には、澁筋の流れによって運ばれた土砂が堆積し自然堤防のような高まりができています。この高まりの底質は、周辺に比べ粒径が大きくなっています。
- 7) 水中植物は、澁筋と北部の浅い部分を除くほとんどの部分にアマモやコアモモが分布し、藻場を形成しています。

(2) 土地利用調査

土地利用調査では、1950(昭和25)年頃、1975(昭和50)年頃、2000(平成12)年頃の3時期の地形図から風蓮湖周辺及び温根沼地区の土地利用現況とその変化を調査し、次の結果を得ました。

- 1) 調査地域においては、各年代で森林が減少してきているが、森林が全体に占める割合が一番多くなっています。
- 2) 湿地面積は1950年と比較して1975年には約20%、2000年には約40%が減少しています。このうち森林化によるものが約25%、荒地化によるものが約10%を占めています。
- 3) 土地利用項目間の変化の分析により、1950年から1975年にかけて年平均1.2km²の割合で森林から畑地等へ、また年平均0.6km²の割合で荒地等から畑地等への土地利用の変化が起きており、この傾向は1975年から2000年にかけても同様に継続されています。

(3) 地形調査

地形調査では、風蓮湖周辺及び温根沼地区において、資料収集、現地調査、空中写真判読により地形を台地・段丘、低地、湖沼の3つに類型化し、それぞれの地形の特徴を把握して地形分類図にとりまとめました。

- 1) 本調査地区の北部は、根室湾の海岸線に沿って砂州・砂堆が連なり、風蓮湖や温根沼の海跡湖を形成しています。その南部の根釧原野(根釧台地)の更新世段丘内を東西に別当賀川(べつとうががわ)が蛇行をしながら流下しています。また、温根沼東側の根室半島も更新世段丘で形成されています。
- 2) 地形と土地利用の関係をみると、更新世段丘上は、主に原生林や野草地を開墾した牧草地に利用され、根室市街地もこの段丘上に位置しています。また、低地はほとんどが湿地で未利用地となっています。